

介護予防のための地域診断指標—文献レビューと 6 基準を用いた量的指標の評価

井手 一茂 , 鄭 丞媛 , 村山 洋史 , 宮國 康弘 , 中村 恒穂 , 尾島 俊之 , 近藤 克則
総合リハビリテーション 46 卷 12 号 (2018 年 12 月)

要旨 【背景】地域づくりによる介護予防に有用な地域診断の量的指標と今後の課題を明らかにすることを目的とした。【方法】医学中央雑誌 Web, PubMed で検索し入手した日本における 31 論文を対象に, ① 研究デザイン, ② 地域単位, ③ 介護予防アウトカム指標, ④ 関連指標を抽出した。2 つ以上の論文で指標間に有意な関連（再現性）があった指標について, 5 人の評価者が相談せずに量的指標に必要な 6 基準を満たすか評価した。【結果】横断研究による市町村・校区レベルを地域単位とした研究が多く, アウトカム 28 指標, 関連 69 指標が報告されていた。再現性があった 27 指標のうち 3 人以上が 6 基準を満たすと評価したのは 14 指標で, 社会参加やサポートあり割合などが高い地域ほど, うつ, 閉じこもり, 転倒, 残存歯数少ない, 要支援・介護認定の割合が低かった。【結語】14 指標が地域診断に有用と思われた。今後は, 低栄養, 認知機能低下などにかかる指標開発や縦断研究による予測妥当性の検証が望まれる。